

現状維持の無料を基本に意見書提出へ 吉川区地域協議会がスクールバス運行基準等で審議

吉川区地域協議会が7月27日開催され、通学援助費、スクールバス等運行の新基準について自主審議を行いました。その結果、吉川区地域協議会としては現状維持の無料化を基本にした意見書を提出することで合意しました。

この日の協議会では、最初に、前回の会議以降取り組んできた近隣の地域協議会役員との意見交換の様子などを山岸、岩井両副会長が報告しました。そのなかで、安塚区などが市教委の方針に従うとしていること、浦川原区が吉川区地域協議会に近い主張をしていること、大潟区が現行通りとするよう求めていることなどが明らかにされました。

この報告を受けた委員間の話し合いでは、「保護者負担はやむを得ないができるかぎり低額に抑えてほしい」「吉川のみがとやかく言うべきでなく、全体で決まれば増額になっても仕方ない」「負担があっても兄弟等の減額が必要」「(いくつかあった学校が)統合して一校になり、遠距離者も多いなかで、通学時間の負担の上に金の負担まではできない。あくまで無料でいくべき」等の意見が出されました。

話し合いでは意見が分かれたものの、最終的な意見集約では、「通学距離の遠近は学校統合によってもたらされたもの。だからこそ、無料化で統一すべきではないか」ということになり、現状維持の無料を基本に専門委員が意見書をまとめていくことを確認しました。

意見書提出は大潟に次いで二例目

通学援助費、スクールバス等運行の新基準に

ついで意見書を提出するのは大潟区地域協議会(7月28日提出)に次いで二例目です。

大潟区の意見書では、これまでの通学支援・スクールバス運行の制度について、「それぞれの地域の通学事情を勘案してつくられてきた歴史の経緯があり、また義務教育費は本来無償であり、教育の機会均等を保障するという観点から保護者負担にできるだけ格差が生じないように配慮されてきた」と評価。そのうえで、今回の新基準策定にあたり、①従前の制度を尊重し、地域の通学事情を考慮に入れて新基準を策定する。②保護者負担にできるだけ格差が生じないよう配慮すること求めています。

県土木部長に直接要望伝える

新井柿崎線整備促進議員連盟

27日は主要地方道新井柿崎線整備議員連盟の県土木部長要請行動もありました。11人のメンバーと上越市選出県議が参加しました。



要望書にまとめられた項目は歩道整備、交差点改良など22項目です。連盟を代表して宮崎政国会長が説明。その後、野澤英之助土木部長や高木努道路管理課長が回答しました。このなかで野澤部長は、「道路



特別養護老人ホームほほ笑よしかわの里は7月25日、第5回ほほ笑・ふれあいまつりを開催しました。

小雨がばらつくなかで開会。地元出身演歌歌手・三島みどりさんの歌謡ショー、よさこいソーラン踊り、太鼓などを皆で楽しみました。三島さんの美声が効いたのででしょうか、「無法松の一生」の歌のあと、雨は上がりました。

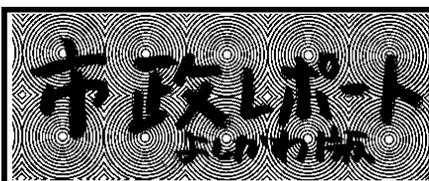
予算が少なくなっている中で、命にかかわる急ぐべきものは急いでいるので理解願いたい」とのべました。県道新井柿崎線の歩道整備率は36・5%。これひとつみても命にかかわる整備はまだ不十分です。大型道路などの新設よりも地域に密着した道路の整備を急いでほしいものです。写真は27日、土木部長室にて橋爪が撮影。

シリーズ 上越市内の橋

第4回 猫橋

県道上越安塚柏崎線の三和区内、野村交差点のすぐ近くにあります。飯田川の支流にかかった長さ3メートルほどの小さな橋です。1980年12月竣工。

三和区老人会発行の冊子によると、「その昔、夜な夜な、近隣の猫どもが集まって酒を飲み、三味線をひき、賑やかに踊っていた」とか。猫の由来とか。近くに、猫沢橋という橋もあります。



NO 1408
2009.8.2

発行・編集 日本共産党上越市議
橋爪法一

Tel. 548-3628 (有線) 4867

E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp

春よ来い 第一〇六回 ひぐらし

特別養護老人ホームほほ笑よしかわの里。ほんの数日間だけ入所する人をいれても入所者数はわずか三〇数人という小さな老人ホームです。この施設の南側の広場で年一回夏祭りが行われます。「ほほ笑」ふれあいまつりと名付けたこの祭り、たくさんの人たちが、いまかいまかと待ち望み、楽しみにするようになりました。

広場には毎回テントが張られ、焼きそば、漬物、お菓子などを売るお店も並びます。会場は入所者とその家族、ボランティア、区内の団体・グループ、地域の人たちでいっぱいになります。

この祭りのテーマは「ふれあい」「助け合い」。ここで、食べて、飲んで、歌や踊りなどをみんなで楽しむ。いろんな人たちが交流する。一見、どこにでもある感じの催しですが、みんなをとってもいい気分にしてくれるのです。

私が初めて「ほほ笑」ふれあいまつりに参加したのは数年前でした。久しぶりに会える人がいるはず、まずは会って励まそうと思ったら、その逆になりました。最初に再会した人は同じ集落に住んでいたHさんでした。「元氣かね」と声をかけたら、くりくりした目で私の顔を見て、「父ちゃんどうしたね、元氣かね。母ちゃんは……。がんばらないや」という言葉が返ってきました。昨年は、お茶を何回もご馳走になったことがあるTさんから声をかけてもらいました。「おら、おまんの名前だけは忘れないよ。フッフ」。車いすから私を見上げるようにして言うTさんの色白の顔を見たら、ちよっぴり恥ずかしくなりました。

思いがけない出会いもあります。数年前、小学校で「特別授業」をさせてもらったことがあります。ふるさとの魅力の一つとして「もらい風呂」を例に「助け合い」の心を語りました。その時、目を輝かせて聴いてくれた一人にSさんがいました。彼はもう社会人ですが、祭りで会った時は高校生でした。家族の人が入所していて参加したのかと思いましたが、Sさんは祭りのボランティアとして参加していたのです。なんとなくうれしくなって、目で合図を送ると軽く会釈してくれました。

今年の「ほほ笑」ふれあいまつりは五回目。小雨がぱらつくあいにくの天候となり、入所者のみなさんは高齢者福祉施設・福寿荘の中からの見学です。会場となった広場のテント周辺には近くの町内会の人たちや入所者の家族、親戚の人、職員、ボランティアなどが集まりました。

毎回、祭りの盛り上げに一役買って来てくれる太鼓演奏グループ・「鼓舞衆」、よさこいソーランの「百華踊乱よしかわ」のみなさんに加えて、今回は地元出身の歌手・三島みどりさんも参加してくれました。

三島さんは広場の中央で「津軽の花」などの演歌を丁寧に歌いあげました。もちろん、三島さんの持ち歌も。一〇年前に発売された「母の雪」には、「雪」という言葉が二〇回ほどでてきます。「雪」という言葉を母と置き換えて聴いてみてください」という三島さんの呼びかけがあつて、歌が始まった時、福寿荘の中にいた入所者のみなさんの方へと自然に目が行きました。母親への懐かしい想いをかきたてられたのでしょうか、窓のそばでじっと聴き入る女性の姿が目にとまりました。

三島さんが歌っている間、ひぐらしの鳴く声が続きました。カナカナカナ。この鳴き声もまた郷愁をそそります。懐かしい思い出を伴い、人と人をつないでくれます。しとしと降っていた雨はいつの間にか止んでいました。

路線バス・デマンドバス実証運行の利用状況はどうなっているか

吉川区総合事務所は先月27日の地域協議会の場で、区内の路線バス・デマンドバス実証運行の利用状況調査結果について報告しました。調査は平成21年7月13日(月)～19日(日)までの1週間。土日は減便、休止便があり、平均乗車人数は実便計算となっています。

(1) 各路線の利用状況

路線名	便数(日)	乗客数	平均乗車人数	説明
上下浜線	8	延36人	0.82人/便	駅利用1人、温泉利用
吉川くびき線	6	23	0.68	駅利用1～2人
山直海線	18	541	5.30	小・中学生の登下校が殆ど
泉谷・勝穂循環線	7	364	9.58	小・中学生の登下校が殆ど
吉川西部循環線	5	111	3.96	小・中学生の登下校が殆ど

(2) デマンドバス

＜柿崎 → 村屋・尾神方面＞

区間乗車4人(平均0.24人/便)、降車27人(平均1.59人/便) 計31人

＜村屋・尾神 → 柿崎方面＞

区間乗車9人(平均0.53人/便)、降車2人(平均0.12人/便) 計11人



リョウブ

※ 路線バス・デマンドバス運行についてのご意見、ご要望は区総合事務所の総務・地域振興グループへ。